

多文化共生についてのアンケート結果

本県には、3万6千158人の外国人が住んでいます。(令和4年12月末現在:住民基本台帳人口)これは、県民約39人に1人が外国人ということになります。

県では、滋賀県多文化共生推進プラン(第2次改定版)を策定し、

「滋賀県で暮らし、働き、学ぶすべての人が、国籍や民族などの違いにかかわらず、相互に人権と個性を尊重しながら、多様性を生かして活躍できる多文化共生の地域社会」を目指し、多文化共生施策に取り組んでいます。

多文化共生の推進にあたり、県民の皆様の多文化共生についての意識や外国人県民等との関わりの現状について把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【外国人県民等とは】

国籍、民族にかかわらず、母語や文化、宗教、生活習慣など、日本以外の背景をもつ県民

★調査時期:令和5年10月

★対象者:県政モニター296人

★回答数:246人(回収率83.1%)

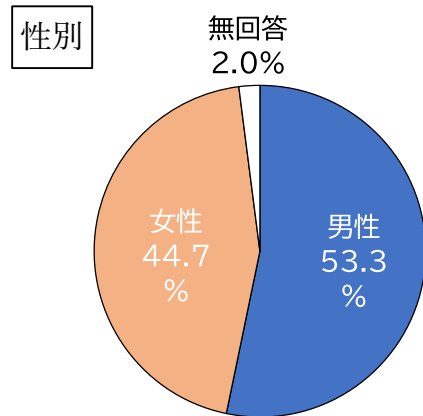
★担当課:総合企画部 国際課

(※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。)

【属性】

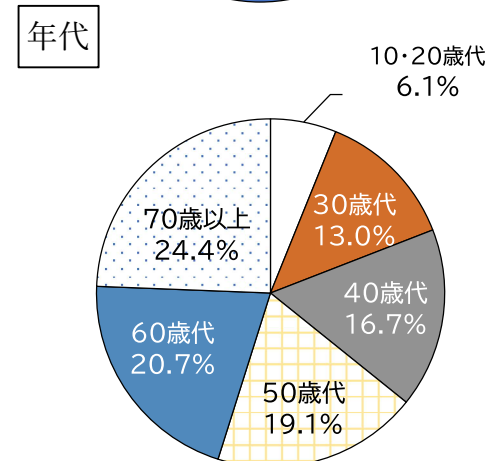
◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	131	53.3
女性	110	44.7
無回答	5	2.0
合計	246	100.0



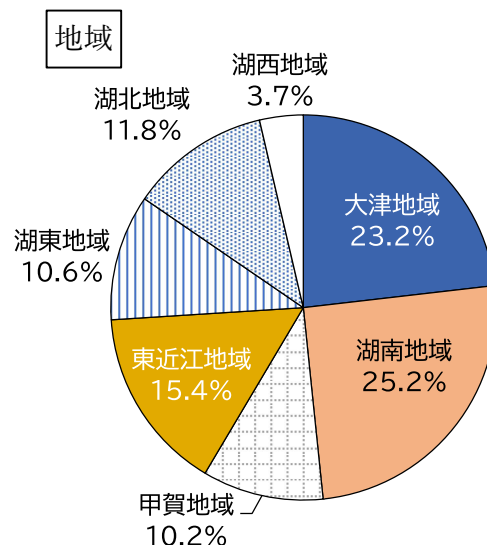
◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	15	6.1
30歳代	32	13.0
40歳代	41	16.7
50歳代	47	19.1
60歳代	51	20.7
70歳以上	60	24.4
合計	246	100.0



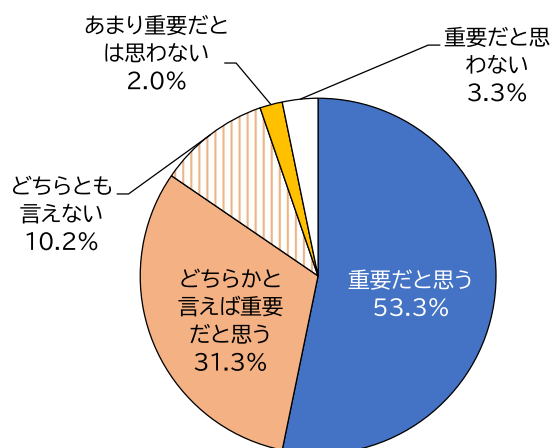
◆地域

項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	57	23.2
湖南地域	62	25.2
甲賀地域	25	10.2
東近江地域	38	15.4
湖東地域	26	10.6
湖北地域	29	11.8
湖西地域	9	3.7
合計	246	100.0



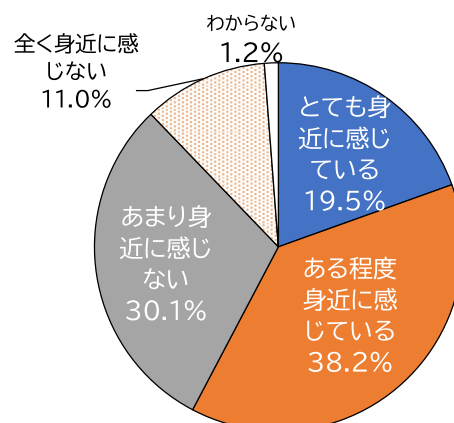
問1 「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく。」多文化共生社会の実現について、あなたはどのように思いますか。(回答チェックは1つだけ n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
重要だと思う	131	53.3
どちらかと言えば重要だと思う	77	31.3
どちらとも言えない	25	10.2
あまり重要だとは思わない	5	2.0
重要だと思わない	8	3.3
合計	246	100.0



問2 あなたは、普段生活をしていて、外国人県民等の存在を身近に感じますか。次の中から当てはまるものを選択してください。(回答チェックは1つだけ。 n=246)

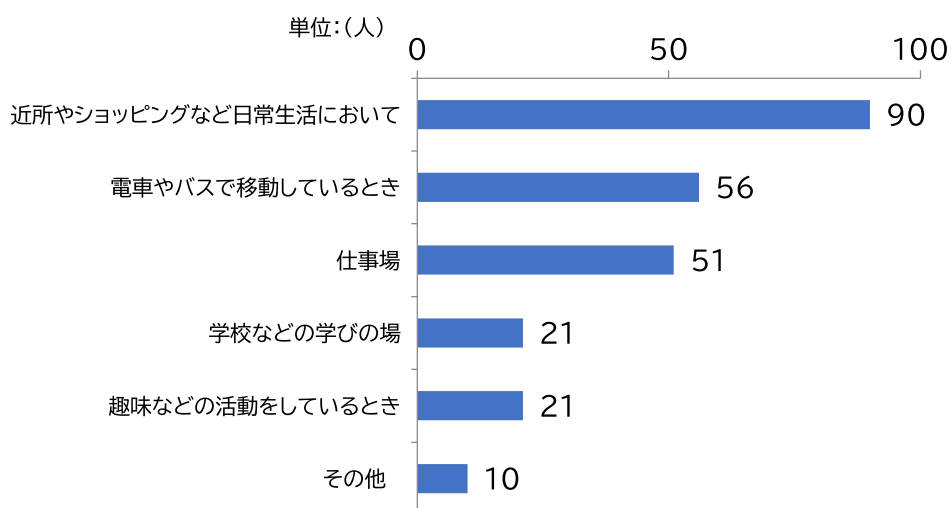
項目	人数(人)	割合(%)
とても身近に感じている	48	19.5
ある程度身近に感じている	94	38.2
あまり身近に感じない	74	30.1
全く身近に感じない	27	11.0
わからない	3	1.2
合計	246	100.0



問3 問2で「とても身近に感じている」または「ある程度身近に感じている」を選択された方におたずねします。どのような場面で外国人県民等の存在を身近に感じますか。

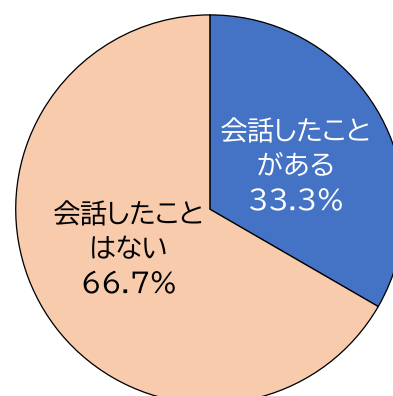
(回答チェックはいくつでも。n=142)

項目	人数(人)	割合(%)
近所やショッピングなど日常生活において	90	63.4
電車やバスで移動しているとき	56	39.4
仕事場	51	35.9
学校などの学びの場	21	14.8
趣味などの活動をしているとき	21	14.8
その他	10	7.0



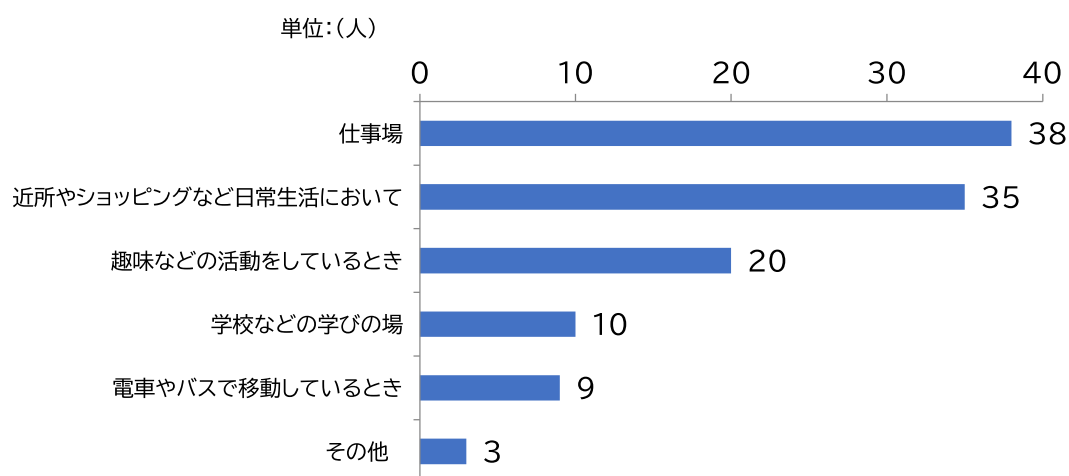
問4 あなたは過去3ヶ月間に、外国人県民等と会話(単なる“こんにちは”以上)をしたことはありますか。(回答チェックは1つだけ。n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
会話したことがある	82	33.3
会話したことはない	164	66.7
合計	246	100.0



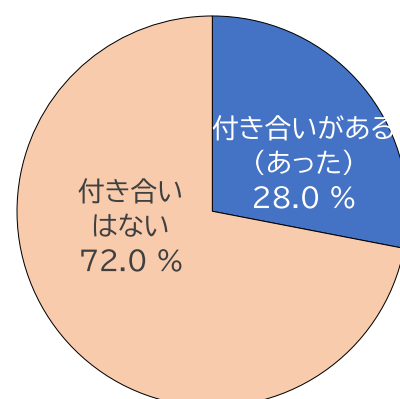
問5 問4で「会話したことがある」を選択された方におたずねします。
 いつ、またはどこで会話しましたか。(回答チェックはいくつでも n=82)

項目	人数(人)	割合(%)
仕事場	38	46.3
近所やショッピングなど日常生活をしているとき	35	42.7
趣味などの活動をしているとき	20	24.4
学校、その他の学びの場	10	12.2
電車やバスで移動しているとき	9	11.0
その他	3	3.7



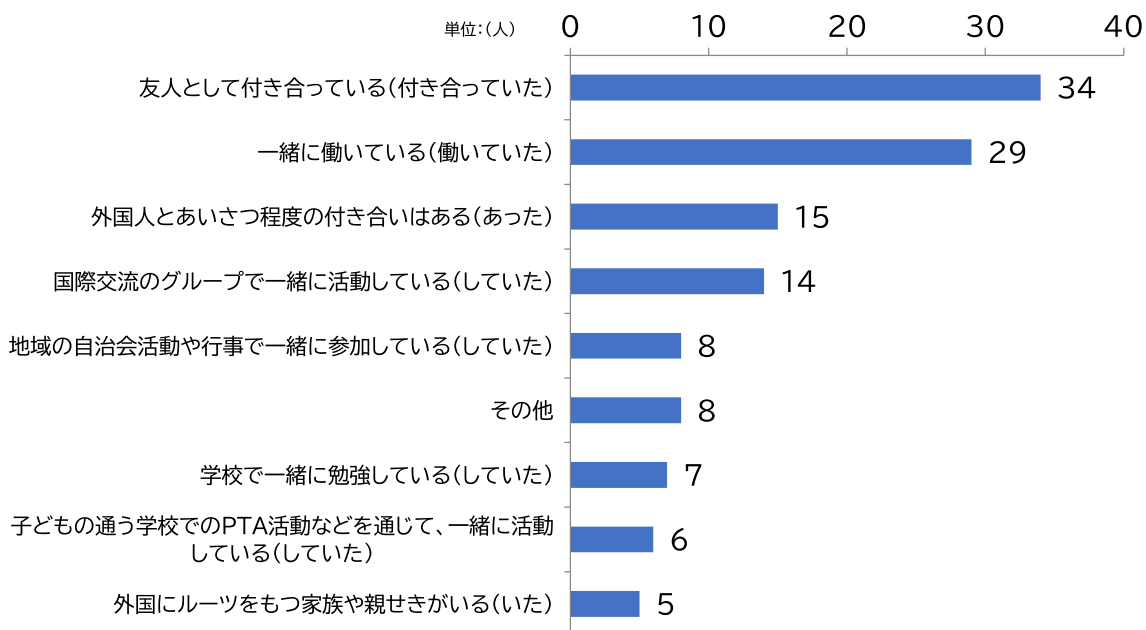
問6 あなたは外国人県民等と付き合いがありますか。
 (過去の経験を含む)(回答チェックは1つだけ。n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
付き合いがある(あった)	69	28.0
付き合いはない	177	72.0
合計	246	100.0



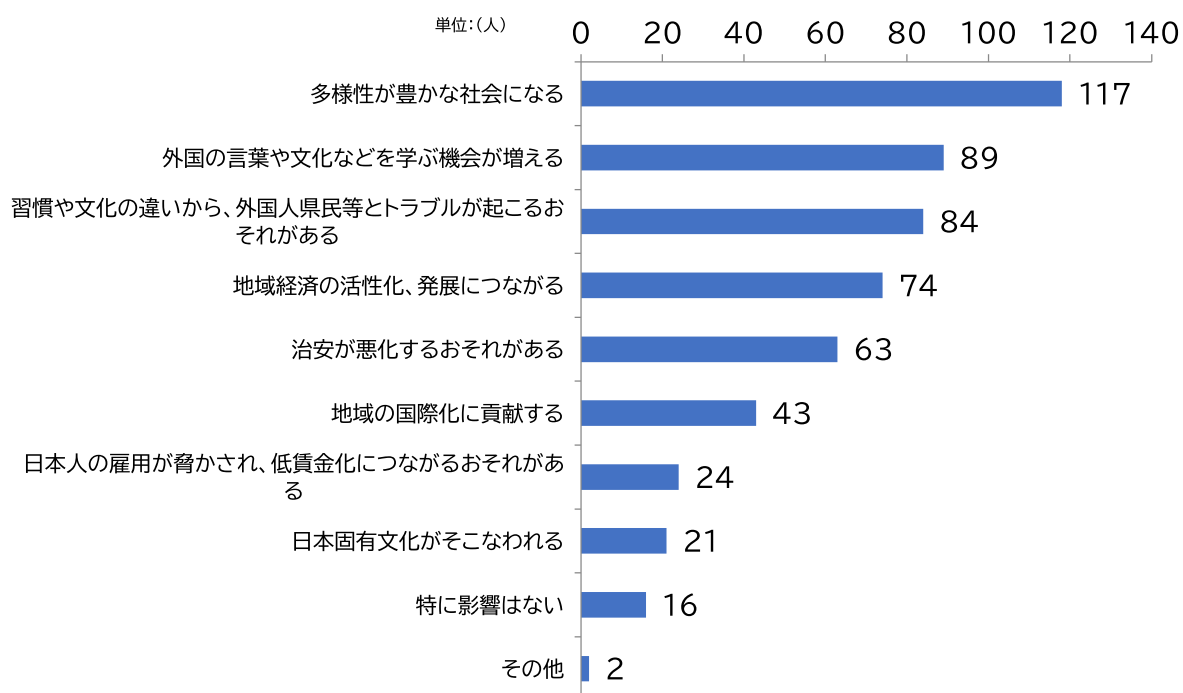
問7 「付き合いがある(あった)」を選択された方におたずねします。あなたは外国人県民等とどのような付き合いがありますか。(過去の経験を含む)(回答チェックはいくつでも。n=69)

項目	人数(人)	割合(%)
友人として付き合い合っている(付き合い合っていた)	34	49.3
一緒に働いている(働いていた)	29	42.0
外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)	15	21.7
国際交流のグループで一緒に活動している(していた)	14	20.3
地域の自治会活動や行事で一緒に参加している(していた)	8	11.6
その他	8	11.6
学校で一緒に勉強している(していた)	7	10.1
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)	6	8.7
外国にルーツをもつ家族や親せきがいる(いた)	5	7.2



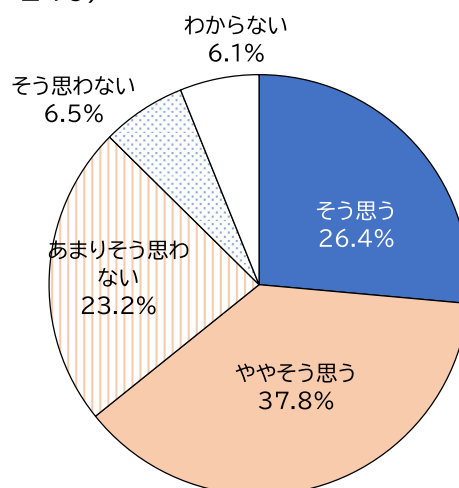
問8 あなたは、地域社会に外国人県民等が増えることについてどう思いますか。
 (回答チェックは3つまで。 n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
多様性が豊かな社会になる	117	47.6
外国の言葉や文化などを学ぶ機会が増える	89	36.2
習慣や文化の違いから、外国人県民とトラブルが起こるおそれがある	84	34.1
地域経済の活性化、発展につながる	74	30.1
治安が悪化するおそれがある	63	25.6
地域の国際化に貢献する	43	17.5
日本人の雇用が脅かされ、低賃金化につながるおそれがある	24	9.8
日本固有文化がそこなわれる	21	8.5
特に影響はない	16	6.5
その他	2	0.8



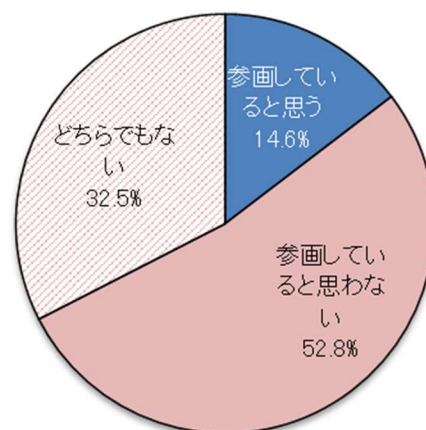
問9 あなたは、外国人県民等と地域社会や仕事場、学校、イベントなどで、交流や関わりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
そう思う	65	26.4
ややそう思う	93	37.8
あまりそう思わない	57	23.2
そう思わない	16	6.5
わからない	15	6.1
合計	246	100.0



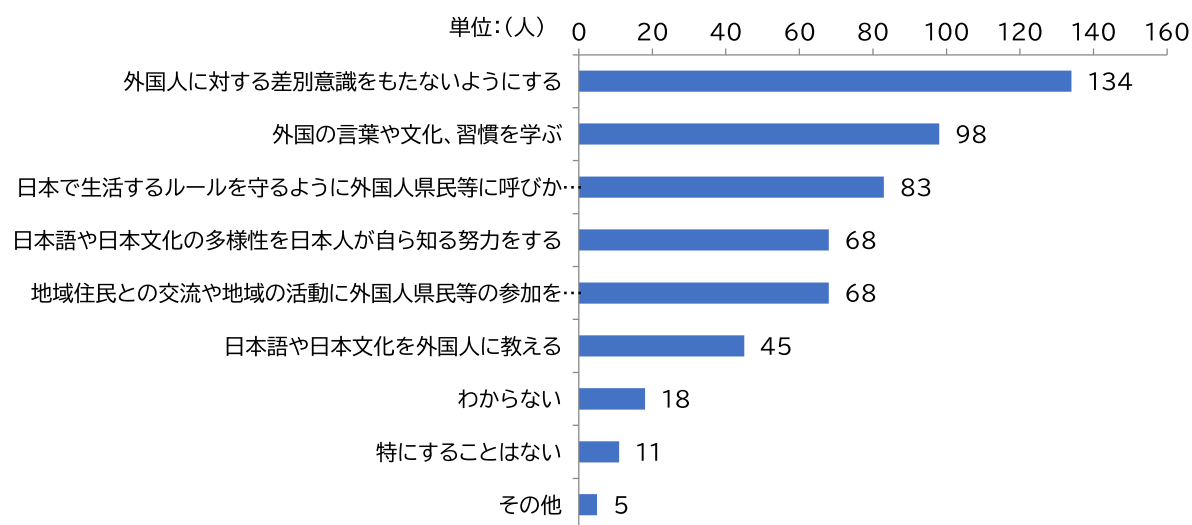
問10 あなたは外国人県民等が地域の一員として、地域の社会活動等(例:自治会などの地縁組織の活動、祭り等の地域行事、ボランティア活動など)に参画していると思いますか。(回答チェックは1つだけ。 n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
参画していると思う	36	14.6
参画していると思わない	130	52.8
どちらでもない	80	32.5
	246	100.0



問11 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし、活躍できる地域社会にしていくために、「日本人県民」は何をすべきだと思いますか。(回答チェックは3つまで。 n=246)

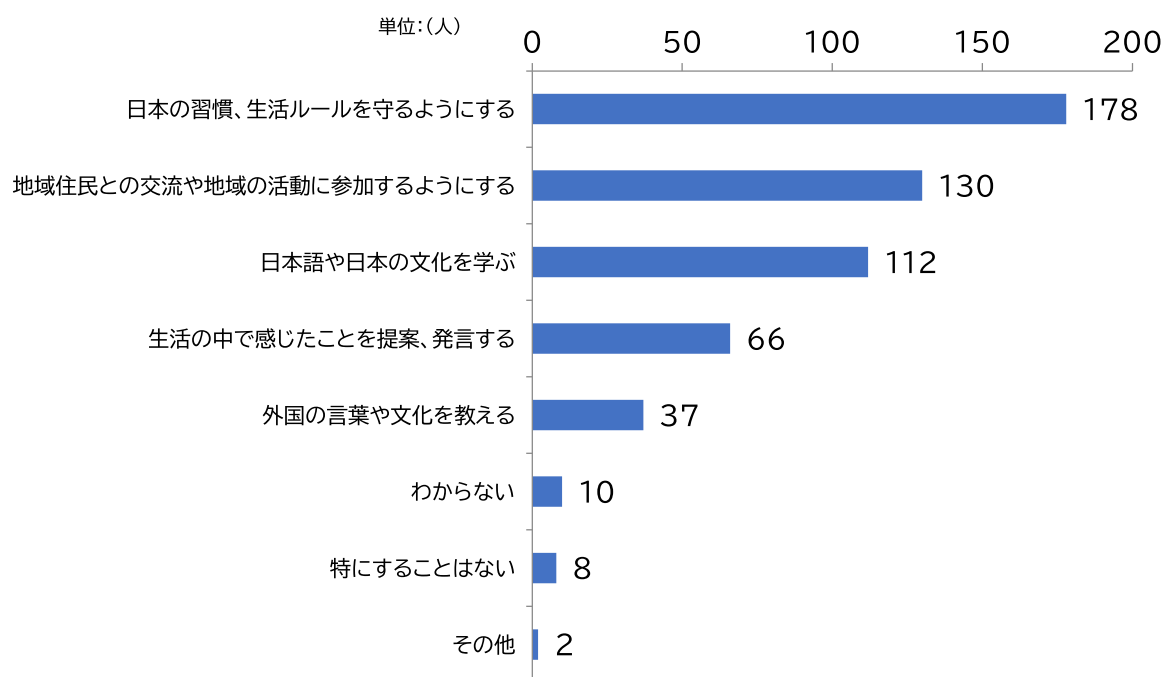
項目	人数(人)	割合(%)
外国人に対する差別意識をもたないようにする	134	54.5
外国の言葉や文化、習慣を学ぶ	98	39.8
日本で生活するルールを守るように外国人住民に呼びかける	83	33.7
日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする	68	27.6
地域住民との交流や地域の活動に外国人県民等の参加を呼びかける	68	27.6
日本語や日本文化を外国人に教える	45	18.3
わからない	18	7.3
特にすることはない	11	4.5
その他	5	2.0



問12 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会にしていくために、「外国人県民等」は何をすべきと思いますか。

(回答チェックは3つまで。n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
日本の習慣、生活ルールを守るようにする	178	72.4
地域住民との交流や地域の活動に参加するようにする	130	52.8
日本語や日本の文化を学ぶ	112	45.5
生活の中で感じたことを提案、発言する	66	26.8
外国の言葉や文化を教える	37	15.0
わからない	10	4.1
特にすることはない	8	3.3
その他	2	0.8



問13 日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし、活躍できる社会にしていくために、県や市町などの行政は、どのような取組に力を入れるべきだと思いますか。

(回答チェックは3つまで。 n=246)

項目	人数(人)	割合(%)
日本人県民と外国人県民との交流の場をつくる	136	55.3
外国人県民等が日本語でコミュニケーションがとれるよう、日本語の学習を支援する	101	41.1
日本人県民と外国人県民等双方に対し、多文化共生に関する意識啓発や国際理解を促進する	75	30.5
外国人県民に対し、日本の生活ルールや習慣、文化の違いなどについて周知する	74	30.1
外国人県民等に対する相談体制や情報提供を充実する	69	28.0
外国人県民が地域社会に積極的に参画するように促す	48	19.5
外国人県民の子どもに対する教育を充実させる	35	14.2
企業に対し、労働環境の改善や意識啓発を促す	15	6.1
日本人県民に対し、外国語の学習を支援する	14	5.7
その他	7	2.8



問 14 外国人県民等と日本語でコミュニケーションが取れず困った経験があれば、教えてください。(抜粋)

- ・多様性という言葉だけが先走っていて、受け入れる側の理解が不足している。
- ・英語圏の方々であれば 何とかなるが それ以外だと 難しい。
- ・外国人県民等と交流が無かったので、困った経験はない。
- ・3年弱単身赴任していたので、外国人県民の気持ちがわかる。現地語でのコミュニケーションと生活習慣の違い。現地では方言もあるし独特の言い回しもある。そしてその土地に根ざした生活習慣がある。これらは現地の人との交わりでしか学べない。
- ・近くの川の野原で直火で BBQ をしていたので注意したが、言葉が通じなかった。
- ・近所に外国人の方がいても、言葉が通じるのかわからない。また、同じ国の方のコミュニティの中で生活しているのを見ると、日本人とかかわりを持つつもりはないのかな、と寂しい気持ちになります。地域の回覧板を作成しており、ポルトガル語にも訳していますが、理解してもらっているのかフィードバックもないので、わからない。
- ・困っているベトナムの方に適切なアドバイスができなかった。
- ・知り合いの外国人からよく聞くのは、基本的に日本人はみんな優しく丁寧に教えてくれたり助けてくれるけど、何でも言い合えたり家族ぐるみで交流できるような深い関係になれないので日本人の友達ができない、とのこと。やはり言語の壁がありお互いに深い話ができないからだと思う。日本人同士でも近所住民との関係が希薄になりがちなので、外国人、日本人問わず交流の場があればいいと思う。
- ・昔、仕事で日系の人と一緒に仕事をしていましたが、初めはお互いに意志が通じ合わない事も有るが時間が解決してくれました。
- ・特にない。日本語が話せなくても、両者とも英語でコミュニケーションが取れれば問題ない。
- ・文化の違いを埋めるのは無理。

問 15 その他、日本人県民と外国人県民等が共に安心して暮らし活躍できる地域社会についてご意見がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ・地域社会では、さまざまな地域の行事における『親切』や、おもいやりが、共に楽しく暮らす基本と考えます。国によりましては常識や価値判断や基本特性が異なることがありますから、よく話し合って双方が理解を深めておくことが必要な場合もあります。
- ・日本人県民と外国人県民が話し合いできるような場を設ける必要がある。お互いに、「関わらない方が良くかも」という一方的な遠慮があり、無言のうちに避けようという考えになるから。
- ・お互いに見えない壁が、あると思う。それぞれのコミュニティーがある。地域のお祭りやイベントで出店をだしたりして、身近なところから交流できればと思う。
- ・お互いの文化や慣習を知ることからだと思います。マナーの悪い方にはあまり会ったことがなく、どちらかというおとなしい印象の方が多い気がします。過剰に気を遣わせていないかな？と心配になります。安心してここに住んで良いのですよ、と伝えられる機会があったら良いと思います。
- ・ささいな行動習慣の違いを取り上げて嘲笑したり、卑下したり、ことさらに迷惑がったりする心情を意識的に抑制すべきであると思う。
- ・意思疎通ができるようにするための、日本語を学んでもらえるようにあらゆる機会を設け、子供も、大人も学べるようにすべき。また行政のシステム、社会の最低限のルールをつたえる機会を設けるべきだ。食・住・職業・医療・子供の教育・県で持続的に住むための将来の夢をかなえるためのアドバイス等々。日本人にも必要かもしれない。
- ・外国人と日本人県民が共に安心して暮らすには、相互の理解が必要だと思います。どちらか一方が我慢したりするのではなく、共に理解するための行政のサポート体制を望みます。
- ・外国人県民に対する日本語支援のため、日本人の語学専門家を県として養成する必要がある。経験の少ないボランティアでは心もとないお寒い教育環境と想像する。
- ・企業が積極的に外国人を雇用し、責任を持って日本の習慣、文化等を講習する。
- ・共生が理想だが、どのくらいの県民が外国人と関わりたいと思っているのか。結局は便利な使い捨ての安い労働力としてしか今後も見られないと思う。
- ・言葉が通じることも大切ですが、やはりルールを守れない行動は反感を買ってしまうので日本で暮らす上で必ず押さえておきたいポイントについてはしっかりと外国人に伝えてあげる必要があると思います。また、経済的に安定していないと犯罪に走ってしまう可能性があるため、雇用の確保も重要だと思います。

- ・困っている外国人を助けてあげたいと思っても何かあった時のことを考えると個人では動けない。外国人相談窓口等もあるが、そこへ案内して外国人たちにその後どんな事が起こるか分からないと下手に繋ぐことができない。日本人も外国人も気軽に集まれる交流の場を公民館などを活用して広めていくのはどうか。また、そうした外国人支援に関してボランティアに頼りすぎだと思う。最近は地域の高齢化、共働き家庭の増加、少子化などの問題でボランティアができる余裕のある人は少ない。
- ・埼玉県川口市在住のクルド人による騒動はやはり無関心ではいられない。多文化共生は理念、理想であるが、現実的には相当の摩擦と困難が先行して出現する。この段階で対応を誤ると、排他的な方向に変わるだろう。多文化共生の反動として排他主義が台頭することが危惧される。この2つの考えは、遠い遠い両極端にあるのではなく、表裏一体のようなもので、ひと吹きで裏表が変わってしまう可能性を感じる。
- ・昨今、田舎であっても日本人同士でもご近所づきあいがないので、日本人と外国人県民以前に、地域内でのコミュニケーションを取りやすくする社会になればいいと思います。
- ・外国人の人達はそれぞれの人種でコミュニティーができていて、日本人と関わらなくても生活できている現状があります。お互い言語理解ができないとコミュニケーションは取りにくく、関わろうとしないと思うので、外国人が日本語を学ぶだけでなく、日本人も外国語を学ぶ機会を仕組みとしてあればいいのにと思いました。同じ地域に住んでいるのにととても遠くにいる印象でした。
- ・治安が悪くならない国際交流を促進して欲しい。
- ・他国の移民問題などを目の当たりにしてあると正直治安の悪化には不安を覚えます。
- ・多国籍者は謙虚に保護無しで働いて生活すべし、文化が異なるのは埋まらない。
- ・定住を目指す外国人県民のため、日本語の学習機会が、無料あるいは安価で得られる施設や制度を、行政が用意すると共に多文化共生の啓発を進めることが必要である。
- ・日本で住むなら日本のルールを守り、自分たちの文化やルールを押し付けないでほしい。できれば日本語での簡単な会話ができる事が必要だと思う。
- ・日本人、外国人という区別だけではなく、男性、女性、未婚、既婚等多様な生き方に対して理解を深めたり、偏見を持たないようにすること。
- ・日本人は外国人に対して、そんなに差別意識も持っていないし、日本に馴染んでくれるなら、一緒にやっけて行こうと考えている人が多いと思う。わざわざ外国人に対して、行政が大きな税金を使って、外国人を支援する必要があるのか疑問を感じる。

・日本人も外国人も自分たちの文化や習慣をお互いに押し付けないこと、許容できるところは許容する懐の広さが必要だが、何でもかんでも相手の言うとおりに対応するのも違う。なお、帰化していない外国人に参政権は不要だが、別途行政へ彼らの意見を反映させる仕組みが必要。

・日本文化の押しつけは、旅行者や好意を持たれている外国人の方には問題ありません。しかし自国の文化のままの生活を希望している人もいます。お互いを認め合う事が重要と考えます。その為にはまず交流を持つことが必要です。自治体主導でそのような場を提供してもらいたいです。

・例え言葉がうまくしゃべれなくても、まずはお互いが興味を持って何かに接する場があればと思う。その時に、言語能力が不十分でも海外経験のあるシルバー人材が常駐している「たまり場」があれば、お互いの理解が少しずつでも深まって行くと思います。